

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者		コクリツダイガクホウジンナガサキダイガク 国立大学法人 長崎大学								
フリガナ大学の名称		ナガサキダイガクダイガクイン 長崎大学大学院[Nagasaki University Graduate School]								
大学本部の位置		長崎県長崎市文教町1番14号								
大学の目的		長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献するとの理念に基づき、教育研究の高度化及び個性化を図り、アジアを含む地域社会とともに歩みつつ、世界にとって不可欠な知の情報発信拠点であり続けるとともに、地域及び国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的		本研究科では、グローバルヘルス分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養う高いレベルの教育を実施し、国際共同研究や国際共同プログラムを推進していく人材を養成することを目的としている。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	熱帯医学・グローバルヘルス研究科 [School of Tropical Medicine and Global Health]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次			
	グローバルヘルス専攻 [Department of Global Health]	3	5	-	15	博士 (グローバルヘルス)	平成30年10月 第1年次	長崎市坂本1丁目12番4号		
	計	3	5	-	15			【基礎となる研究科】 熱帯医学・グローバルヘルス研究科(博士前期課程) グローバルヘルス専攻		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		【研究科の専攻の設置(国際連携専攻)】 熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (博士後期課程) 長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院国際連携グローバルヘルス専攻 (5) (平成29年3月 意見伺い)  【研究科の設置】 多文化社会学研究科 (修士課程) 多文化社会学専攻 (10) (平成29年3月 意見伺い)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計					
熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス専攻 博士後期課程		0科目	2科目	0科目	2科目	16単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス専攻 (博士後期課程)		教授 人 (9)	准教授 人 (7)	講師 人 (1)	助教 人 (8)	計 人 (25)	助手 人 (0)	人 (0)
		熱帯医学・グローバルヘルス研究科 長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 国際連携グローバルヘルス専攻 (博士後期課程)		人 9 (9)	人 7 (7)	人 1 (1)	人 9 (9)	人 26 (26)	人 0 (0)	人 0 (0)
		多文化社会学研究科 多文化社会学専攻 (修士課程)		15 (15)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	12 (12)
		計		24 (24)	20 (20)	1 (1)	9 (9)	54 (54)	0 (0)	-
	既設	【研究科】 教育学研究科 教職実践専攻(専門職学位課程)		18 (18)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	54 (54)
		経済学研究科 経済経営政策専攻(博士前期課程)		22 (24)	24 (24)	0 (0)	0 (0)	46 (48)	0 (0)	4 (2)
		経営意思決定専攻(博士後期課程)		13 (13)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	2 (2)
		工学研究科 総合工学専攻(博士前期課程)		40 (40)	47 (47)	0 (0)	25 (25)	112 (112)	0 (0)	18 (18)
	要分	生産システム工学専攻(博士後期課程)		29 (29)	41 (41)	0 (0)	0 (0)	70 (70)	0 (0)	2 (2)
		グリーンシステム創成科学専攻(5年一貫制博士課程)		11 (11)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	0 (0)



既設大学等の状況	大 学 の 名 称	長崎大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	【 学 部 】 多文化社会学部 多文化社会学科	年	人	年次人	人		倍			
		4	100	—	400	学士(多文化社会学)	0.96	平成26年度	長崎市文教町1番14号	
	教育学部 学校教育教員養成課程	4	240	—	960	学士(教育学)	1.00	平成10年度	長崎市文教町1番14号	
	経済学部 総合経済学科 昼間コース 夜間主コース	4 4	265 60	3年次 10 5	1080 250	学士(経済学)	1.03	平成10年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
	医学部 医学科 保健学科	6 4	118 106	2年次 5 3年次 14	727 452	学士(医学) 学士(看護学) 学士(保健学)	1.00 1.00	昭和24年度 平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号 長崎市坂本1丁目7番1号	
	歯学部 歯学科	6	50	—	300	学士(歯学)	1.00	昭和54年度	長崎市坂本1丁目7番1号	
	薬学部 薬学科 薬科学科	6 4	40 40	— —	240 160	学士(薬学) 学士(薬科学)	1.01 1.03	平成18年度 昭和61年度	長崎市文教町1番14号	
	工学部 電気電子工学科 情報システム工学科 構造工学科 材料工学科 応用化学科 各学科共通 工学科	4 4 4 4 4 4 — 4	— — — — — — — 380	— — — — — — 3年次 — —	— — — — — — — 1520	学士(工学) " " " " " " " 学士(工学)	— — — — — — — 1.03	平成10年度 " 昭和42年度 昭和45年度 平成3年度 平成18年度 平成23年度	長崎市文教町1番14号 " " " " " " " 長崎市文教町1番14号	
	環境科学部 環境科学科	4	130	3年次 5	530	学士(環境科学)	1.02	平成9年度	長崎市文教町1番14号	
	水産学部 水産学科	4	110	—	440	学士(水産学)	1.03	昭和48年度	長崎市文教町1番14号	
	【 研 究 科 】 教育学研究科 (専門職学位課程) 教職実践専攻	2	38	—	76	教職修士(専門職)	0.77	平成20年度	長崎市文教町1番14号	

平成23年度より学生募集停止。

既設大学等の状況	経済学研究科 (博士前期課程) 経済経営政策専攻	2	15	—	30	修士(経済学) 修士(経営学)	0.86	平成7年度	長崎市片淵4丁目2番1号	平成23年度より学生募集停止。
	(博士後期課程) 経営意志決定専攻	3	3	—	9	博士(経営学)	1.00	平成16年度	長崎市片淵4丁目2番1号	
	生産科学研究科 (博士後期課程) システム科学専攻	3	—	—	—	博士(学術), 博士(工学), 博士(水産学), 博士(環境科学)	—	平成12年度	長崎市文教町1番14号	
	海洋生産科学専攻	3	—	—	—	〃	—	平成13年度	〃	
	環境科学専攻	3	—	—	—	〃	—	平成16年度	〃	
	工学研究科 (博士前期課程) 総合工学専攻	2	220	—	440	修士(工学)	0.97	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	(博士後期課程) 生産システム工学専攻	3	15	—	40	博士(工学)	0.97	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	(5年一貫性博士課程) グリーンシステム創成科学専攻	5	5	—	25	博士(工学)	0.80	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	水産・環境科学総合研究科 (博士前期課程) 水産学専攻	2	35	—	70	修士(学術) 修士(水産学)	0.98	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	環境科学専攻	2	25	—	50	修士(学術) 修士(環境科学)	0.84	平成27年度	長崎市文教町1番14号	
	(博士後期課程) 環境海洋資源学専攻	3	12	—	36	博士(学術) 博士(水産学) 博士(環境科学)	1.05	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	(5年一貫性博士課程) 海洋フィールド生命科学専攻	5	5	—	25	博士(水産学) 博士(環境科学) 博士(海洋科学)	0.48	平成23年度	長崎市文教町1番14号	
	医歯薬学総合研究科 (修士課程) 保健学専攻	2	20	—	40	修士(看護学) 修士(理学療法学) 修士(作業療法学)	1.00	平成18年度	長崎市坂本1丁目7番1号	
	災害・被ばく医療科学共同専攻	2	10	—	20	修士(看護学) 修士(医科学)	1.10	平成28年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	(博士課程) 医療科学専攻	4	60	—	246	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	1.16	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号	

既設大学等の状況	新興感染症病態制御学系専攻	4	20	—	80	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	1.03	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号	平成27年度より学生募集停止。
	放射線医療科学専攻	4	5	—	29	博士(学術) 博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学)	0.80	平成14年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	先進予防医学共同専攻	4	10	—	20	博士(医学)	1.00	平成28年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	(博士前期課程) 生命薬科学専攻	2	36	—	72	修士(薬科学)	0.93	平成24年度	長崎市内教町1番14号	
	(博士後期課程) 生命薬科学専攻	3	10	—	30	博士(学術) 博士(薬科学)	0.93	平成24年度	長崎市内教町1番14号	
	国際健康開発研究科 (修士課程) 国際健康開発専攻	2	—	—	—	修士(公衆衛生学)	—	平成20年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
	熱帯医学・グローバルヘルス研究科 (博士前期課程) グローバルヘルス専攻	2	27	—	42	修士(熱帯医学) 修士(公衆衛生学) 修士(医科学)	1.10	平成27年度	長崎市坂本1丁目12番4号	
附属施設の概要		<p>(附置研究所)</p> <p>○熱帯医学研究所 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：昭和24年5月（昭和42年6月 風土病研究所から改称） 規模等：土地 91, 231㎡ 建物 9, 506㎡ 目的：熱帯医学に関する学理及びその応用を研究する。</p> <p>○原爆後障害医療研究所 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成25年4月 規模等：土地 91, 231㎡ 建物 4, 719㎡ 目的：放射線の人体への影響を国内外のヒパクシャを対象として研究により究明して、人類の安全と安心に寄与する放射線健康リスク評価・管理学を実践し、全人的被ばく医療学を推進するとともに、国際的な放射線被ばく影響の実態調査、ヒパクシャの試料・資料の収集及びデータベースの構築を行うことを目的とする。</p> <p>(附属学校)</p> <p>目的：</p> <p>(1)教育基本法及び学校教育法に定める教育又は保育を行う。 (2)教育学部における児童若しくは生徒の教育又は幼児の保育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の実習の実施にあたる。 (3)教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行う。</p> <p>○教育学部附属幼稚園 所在地：長崎市内教町4番23号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地 51, 185㎡ 建物 1, 148㎡</p> <p>○教育学部附属小学校 所在地：長崎市内教町4番23号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地（上記を含む） 建物 7, 240㎡</p> <p>○教育学部附属中学校 所在地：長崎市内教町4番23号 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地（上記を含む） 建物 7, 613㎡</p> <p>○教育学部附属特別支援学校 所在地：長崎市柳谷町4番1号 設置年月：昭和46年4月 規模等：土地 12, 529㎡ 建物 3, 518㎡</p>								

<p>附属施設の概要</p>	<p>(学部等の附属施設)</p> <p>○教育学部附属教育実践総合センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成13年4月（教育実践研究指導センターを改組） 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 532㎡ 目的：教育実践に関する研究、指導及び研修を総合的に行い、教師教育の充実を図る。</p> <p>○水産学部附属練習船鶴洋丸 設置年月：昭和50年6月（現船：平成16年12月） 規模等：アルミニウム合金船 155トン 最大搭載人員 36名 目的：航海・漁労実習、海洋環境観測、海洋生物資源調査</p> <p>○水産学部附属練習船長崎丸 設置年月：昭和27年3月（現船：昭和61年2月） 規模等：鋼船 842トン 最大搭載人員 69名 目的：トロール漁業実習、海洋学実習、航海運用実習</p> <p>○海洋未来イノベーション機構環東シナ海環境資源研究センター 所在地：長崎市多以良町1551番7号 設置年月：平成28年4月 規模等：土地 10,900㎡ 建物 1,943㎡ 目的：21世紀の最重要課題である地球環境保全及び食料供給の持続性確保に向けて、長崎に隣接する東シナ海及びその沿岸域を主な対象として国内外の研究機関とも緊密に連携しながら、水圏・大気圏・陸圏の環境保全及び多様な生物資源の持続的生産の基盤となる学際領域の研究を推進する拠点として機能することを目的とする。</p> <p>○医歯薬学総合研究科附属薬用植物園 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：昭和47年5月（平成15年4月 薬学部附属施設から医歯薬学総合研究科附属施設へ移行） 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 445㎡ 目的：園内に薬用植物を栽培し、もって学術研究及び教育に資する。</p> <p>○熱帯医学研究所附属アジア・アフリカ感染症研究施設 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成20年4月（熱帯感染症研究センターを改組） 規模等：土地 91, 231㎡ 建物 74㎡ 目的：アジアやアフリカにおける熱帯病・新興再興感染症の発生・拡大に関与する現地長期調査及び複合要因の解析並びに予防制圧に資する研究及び教育を行うことにより、当該分野の学術研究の進展及び人材育成に寄与する。</p> <p>○熱帯医学研究所附属熱帯医学ミュージアム 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成20年4月（熱帯感染症研究センターを改組） 規模等：土地 91, 230㎡ 建物 382㎡ 目的：熱帯医学に関する資料・情報を収集、整理、保存、解析及び提供するとともに、公衆への供覧等を行うことにより、熱帯医学に対する社会の理解を深め、学術研究の進展に寄与する。</p> <p>(附属病院)</p> <p>○長崎大学病院 所在地：長崎市坂本1丁目7番1号 設置年月：昭和24年5月（平成21年4月 医学部・歯学部附属病院を改組） 規模等：土地 86, 807㎡ 建物 91, 169㎡ 目的：患者の診療を通じて医歯薬学関連の教育及び研究を行う。</p> <p>(学内共同教育研究施設等)</p> <p>○保健・医療推進センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：昭和41年4月（平成20年4月 保健管理センターを改組） 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 540㎡ 目的：長崎大学の学生及び職員の健康を守り、予防に努めるとともに、保健・医療分野での医療教育、本学の地域連携及び地域貢献を果及び自治体と連携し、推進する。</p> <p>○先導生命科学研究支援センター 所在地：長崎市坂本1丁目12番4号 設置年月：平成15年4月（アイソトープ総合センター、遺伝子実験施設及び医学部附属動物実験施設を統合再編） 規模等：土地 91, 231㎡ 建物 9, 818㎡ 目的：放射性同位元素等、動物資源及びゲノム情報・遺伝子を用いる教育研究にその施設等を供するとともに、本学における総合的な生命科学研究の推進及び支援を行い、もって教育研究の進展に資する。</p> <p>○ICT基盤センター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成16年12月（総合情報処理センターを改組） 研究科附属施設へ移行） 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 1, 189㎡ 目的：ICTを活用した教育研究環境を提供するため、情報政策の企画立案・実施、高度情報化技術に基づく情報基盤の整備、教育の情報化及び情報教育の推進を行うことを目的とする。</p> <p>○大学教育イノベーションセンター 所在地：長崎市文教町1番14号 設置年月：平成14年4月 規模等：土地 187, 125㎡ 建物 779㎡ 目的：本学の教育理念を達成するために、学士課程教育及び大学教育の在り方に関する研究を行うとともに、その改善に資するデータ蓄積とそれを活用した入学者選抜支援、教育支援等の業務を行うことを目的とする。</p>
----------------	--

<p>附属施設の概要</p>	<p>○先端計算研究センター 所 在 地：長崎市文教町１番１４号 設置年月：平成２２年４月 規 模 等：土地 １８７，１２５㎡ 建物 ４０５㎡ 目 的：次世代並列コンピュータに関する研究開発及び教育を推進し，次世代並列コンピュータを利用した新たな産業創出に資する。</p> <p>○言語教育研究センター 所 在 地：長崎市文教町１番１４号 設置年月：平成２４年４月 規 模 等：土地 １８７，１２５㎡ 建物 ４００㎡ 目 的：本学における外国語教育に関する教育及び研究を推進するとともに，外国語教育の実施に関する企画運営を行う。</p> <p>○核兵器廃絶研究センター 所 在 地：長崎市文教町１番１４号 設置年月：平成２４年４月 規 模 等：土地 １８７，１２５㎡ 建物 ２３０㎡ 目 的：ヒロシマ・ナガサキを現在の世界の潮流の中で新たに位置づけ，学問的調査・分析を通して核兵器廃絶に向けた情報や提言を様々な角度から世界に発信するため，長崎市，長崎県等と連携を図りながら核兵器廃絶に係る教育研究活動を行うことにより，もって本学の教育研究の進展に資する。</p>	
----------------	---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 6 空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人長崎大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>長崎大学</b>					<b>長崎大学</b>				
多文化社会学部 多文化社会学科	100	—	400		多文化社会学部 多文化社会学科	100	—	400	
教育学部					教育学部				
学校教育教員養成課程	240	—	960		学校教育教員養成課程	240	—	960	
経済学部					経済学部				
総合経済学科(昼間コース)	265	10	1080		総合経済学科(昼間コース)	265	10	1080	
総合経済学科(夜間主コース)	60	5	250		総合経済学科(夜間主コース)	60	5	250	
医学部					医学部				
医学科	120	5	745	→	医学科	115	5	715	定員変更
保健学科	106	14	452		保健学科	106	14	452	
歯学部					歯学部				
歯学科	50	—	300		歯学科	50	—	300	
薬学部					薬学部				
薬学科	40	—	240		薬学科	40	—	240	
薬科学科	40	—	160		薬科学科	40	—	160	
工学部					工学部				
工学科	380	—	1520		工学科	380	—	1520	
環境科学部					環境科学部				
環境科学科	130	5	530		環境科学科	130	5	530	
水産学部					水産学部				
水産学科	110	—	440		水産学科	110	—	440	
計	1641	39	7077		計	1636	39	7047	
<b>長崎大学大学院</b>				→	<b>長崎大学大学院</b>				
					<u>多文化社会学研究科</u>				
					<u>多文化社会学専攻(修士課程)</u>	10		20	研究科の設置
教育学研究科				→	教育学研究科				
教職実践専攻(専門職学位課程)	38		76		教職実践専攻(専門職学位課程)	38		76	
経済学研究科					経済学研究科				
経済経営政策専攻(博士前期課程)	15		30		経済経営政策専攻(博士前期課程)	15		30	
経営意思決定専攻(博士後期課程)	3		9		経営意思決定専攻(博士後期課程)	3		9	
工学研究科					工学研究科				
総合工学専攻(博士前期課程)	220		440		総合工学専攻(博士前期課程)	220		440	
生産システム工学専攻(博士後期課程)	15		45		生産システム工学専攻(博士後期課程)	15		45	
グリーンシステム創成科学専攻(博士課程)	5		25		グリーンシステム創成科学専攻(博士課程)	5		25	
水産・環境科学総合研究科					水産・環境科学総合研究科				
水産学専攻(博士前期課程)	35		70		水産学専攻(博士前期課程)	35		70	
環境科学専攻(博士前期課程)	25		50		環境科学専攻(博士前期課程)	25		50	
環境海洋資源学専攻(博士後期課程)	12		36		環境海洋資源学専攻(博士後期課程)	12		36	
海洋フィールド生命科学専攻(博士課程)	5		25		海洋フィールド生命科学専攻(博士課程)	5		25	
医歯薬学総合研究科					医歯薬学総合研究科				
保健学専攻(修士課程)	20		40		保健学専攻(修士課程)	20		40	
災害・被ばく医療科学共同専攻(修士課程)	10		20		災害・被ばく医療科学共同専攻(修士課程)	10		20	
医療科学専攻(博士課程)	60		240		医療科学専攻(博士課程)	60		240	
新興感染症病態制御学系専攻(博士課程)	20		80		新興感染症病態制御学系専攻(博士課程)	20		80	
放射線医療科学専攻(博士課程)	5		20		放射線医療科学専攻(博士課程)	5		20	
先進予防医学共同専攻(博士課程)	10		40		先進予防医学共同専攻(博士課程)	10		40	
生命薬科学専攻(博士前期課程)	36		72		生命薬科学専攻(博士前期課程)	36		72	
生命薬科学専攻(博士後期課程)	10		30		生命薬科学専攻(博士後期課程)	10		30	
熱帯医学・グローバルヘルス研究科				→	熱帯医学・グローバルヘルス研究科				
グローバルヘルス専攻(修士課程)	37		62		グローバルヘルス専攻(博士前期課程)	37		62	
					<u>グローバルヘルス専攻(博士後期課程)</u>	5		15	研究科の専攻に係る課程の変更
					<u>長崎大学-ロンドン大学衛生・熱帯医学大学院</u>				研究科の専攻の設置
					国際連携グローバルヘルス専攻(博士後期課程)	5		15	(国際連携専攻)
計	581		1410		計	601		1460	



教 育 課 程 等 の 概 要														
(熱帯医学・グローバルヘルス研究科 グローバルヘルス専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
演習科目	グローバルヘルス研究演習	1通	4				○		9	7	1	8		
	小計（1科目）	—	4			—								
特別研究	グローバルヘルス特別研究	2～3②	12				○		9	7	1	8		
	小計（1科目）	—	12			—								
合計（2科目）		—	16			—			9	7	1	8		
学位又は称号		博士（グローバルヘルス）	学位又は学科の分野					保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
博士（グローバルヘルス）の学位授与に値する教育を3年、あるいは、それ以上の期間受け、修了要件である16単位以上を取得し、博士論文を作成し、最終審査に合格することによって本コースを修了する。  総単位数 16単位								1学年の学期区分			4期			
								1学期の授業期間			10週			
								1時限の授業時間			90分			

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(熱帯医学・グローバルヘルス研究科 博士後期課程 グローバルヘルス専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	グローバルヘルス研究演習 (Global Health Research Seminar)	<p>各自の研究課題に関するより妥当で質の高い研究計画を立案する。主研究指導教員の指導のもと、副指導教員とのディスカッションをもち、系統的文献レビューを行い、グローバルヘルス研究として十分に独創性と科学的妥当性を有し、実施可能な研究計画を立案する。</p> <p>指導教員により以下の演習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○1～4回目：各自の研究テーマの目的・意義・方法を解説し質疑応答に答える。</li><li>○5～15回目：各自の研究テーマに関連した学術論文を検索・読解・批評した上で、集約し発表する。</li><li>○16～30回目：研究計画書案の作成、発表、討議を行う。</li></ul> <p>(1 北 潔) 生化学, 分子寄生虫学, 熱帯医学, 国際保健学</p> <p>(2 金子 聡) 疫学, 公衆衛生学, 保健情報学, 地域研究</p> <p>(3 有吉紅也) HIV・エイズ, 熱帯医学, 感染症</p> <p>(4 橋爪真弘) 疫学, 国際保健, 気候変動, 環境, 公衆衛生</p> <p>(5 門司和彦) エコヘルス, 地球環境学, 地域保健, 人口統計</p> <p>(6 神谷保彦) 国際保健, 小児保健, 栄養学, 緊急医療援助, 保健医療行政・政策</p> <p>(7 松山章子) 母と子の健康, 質的研究, 医療人類学, 社会開発, リプロダクティブ・ヘルス</p> <p>(8 Sharon Elizabeth cox) 栄養疫学, 臨床疫学, 分子遺伝疫学, 疫学, 国際保健</p> <p>(9 由井克之) 原虫, T細胞, サイトカイン, 免疫制御</p> <p>(10 井上真吾) 獣医学, ウイルス学, 感染症内科学</p> <p>(11 Culleton Richard Leighton) 寄生虫学, 免疫学, ゲノム生物学, 分子生物学, 進化生物学</p> <p>(13 Nguyen Huy Tien) 感染症内科学, ウイルス学, 寄生虫学 (含衛生動物学), 免疫学</p> <p>(14 奥村順子) 母子保健, 難民支援, 災害医療, 社会疫学, エコヘルス</p> <p>(15 松井三明) リプロダクティブヘルス, 疫学, 環境医学, 毒性学</p> <p>(16 Saenko Vladimir) 腫瘍生物学, ゲノム医科学, 疫学・予防医学</p> <p>(17 増田 研) エチオピア民族誌, 近代化, 開発, 紛争, 国際保健</p> <p>(18 上村春樹) 病原原虫学, 原虫の薬剤耐性, 原虫の分子疫学</p> <p>(19 Chris Ng Fook Sheng) 生物統計学, 環境疫学, 健康影響評価, 社会疫学</p> <p>(20 Kim Yoonhee) 生物統計学, 環境疫学, 健康影響評価, 社会疫学</p> <p>(21 樋泉道子) 小児科学, 新生児医学, 疫学, 公衆衛生学, ウイルス学</p> <p>(22 和田崇之) 細菌学, 分子疫学, 人獣共通感染症, ゲノム科学, 公衆衛生学</p> <p>(23 鈴木 基) ワクチン予防可能疾患, 呼吸器感染症, 熱帯感染症</p> <p>(24 Bhim Gopal Dhoubhadel) 感染症診断学, 感染症防御学, 国際感染症学, 感染疫学, 小児感染症学</p> <p>(25 稲岡 健ダニエル) 腫瘍生物学, 分子生物学, 構造生物学, 創薬化学, 寄生虫学</p> <p>(26 古賀智裕) 膠原病・アレルギー内科学, 免疫学</p>	
	グローバルヘルス特別研究 (Thesis Research on Global Health)	<p>主指導教員を中心に、副指導教員や外部アドバイザーも参加しながら、研究計画に基づき研究を遂行し、博士(グローバルヘルス)の学位に相応しい、科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた学位論文(ティース形式)を作成する。</p> <p>下記教員から、主指導教員1名及び副指導教員2名以上で研究指導チームが構成され、指導教員が実施する国際共同研究に参画する中で、研究計画に基づき研究を遂行し、各自の研究成果を発表し質疑応答に答え、各自の研究成果をもとに自らの博士論文を作成する。</p> <p>(2年次1-2Q:週1回3-4Q:週2回 計48回)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○1～15 回目 提案された研究目標と研究目的を達成させるための研究計画書を作成する。具体的には、ち密な文献検索と各指導教員との定期的な個別ディスカッションの結果に基づき、研究デザイン、調査票の作成、試料の入手方法、実験手法、協力研究者との調整、具体的な情報収集方法等の研究詳細計画の準備を進める。</li><li>○16～20 回目 研究承認及び必要に応じて倫理審査承認のための文書を作成し、手続きを進める。</li><li>○21～48 回目 研究詳細計画に基づき、研究を遂行する。</li></ul> <p>(3年次1-2Q:週3回 計48回)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○49～60 回目 研究結果をもとに、情報の分析及び考察を行う。</li><li>○61～75 回目 研究結果に基づいた分析及び考察をもとに、ティース論文を執筆する</li><li>○76～96 回目 論文案をもととして、各指導教員等との討議などを通じ、学位論文を作成する。</li></ul> <p>(1 北 潔) 生化学, 分子寄生虫学, 熱帯医学, 国際保健学</p> <p>(2 金子 聡) 疫学, 公衆衛生学, 保健情報学, 地域研究</p> <p>(3 有吉紅也) HIV・エイズ, 熱帯医学, 感染症</p> <p>(4 橋爪真弘) 疫学, 国際保健, 気候変動, 環境, 公衆衛生</p> <p>(5 門司和彦) エコヘルス, 地球環境学, 地域保健, 人口統計</p> <p>(6 神谷保彦) 国際保健, 小児保健, 栄養学, 緊急医療援助, 保健医療行政・政策</p> <p>(7 松山章子) 母と子の健康, 質的研究, 医療人類学, 社会開発, リプロダクティブ・ヘルス</p> <p>(8 Sharon Elizabeth cox) 栄養疫学, 臨床疫学, 分子遺伝疫学, 疫学, 国際保健</p> <p>(9 由井克之) 原虫, T細胞, サイトカイン, 免疫制御</p> <p>(10 井上真吾) 獣医学, ウイルス学, 感染症内科学</p> <p>(11 Culleton Richard Leighton) 寄生虫学, 免疫学, ゲノム生物学, 分子生物学, 進化生物学</p> <p>(13 Nguyen Huy Tien) 感染症内科学, ウイルス学, 寄生虫学 (含衛生動物学), 免疫学</p> <p>(14 奥村順子) 母子保健, 難民支援, 災害医療, 社会疫学, エコヘルス</p> <p>(15 松井三明) リプロダクティブヘルス, 疫学, 環境医学, 毒性学</p> <p>(16 Saenko Vladimir) 腫瘍生物学, ゲノム医科学, 疫学・予防医学</p> <p>(17 増田 研) エチオピア民族誌, 近代化, 開発, 紛争, 国際保健</p> <p>(18 上村春樹) 病原原虫学, 原虫の薬剤耐性, 原虫の分子疫学</p> <p>(19 Chris Ng Fook Sheng) 生物統計学, 環境疫学, 健康影響評価, 社会疫学</p> <p>(20 Kim Yoonhee) 生物統計学, 環境疫学, 健康影響評価, 社会疫学</p> <p>(21 樋泉道子) 小児科学, 新生児医学, 疫学, 公衆衛生学, ウイルス学</p> <p>(22 和田崇之) 細菌学, 分子疫学, 人獣共通感染症, ゲノム科学, 公衆衛生学</p> <p>(23 鈴木 基) ワクチン予防可能疾患, 呼吸器感染症, 熱帯感染症</p> <p>(24 Bhim Gopal Dhoubhadel) 感染症診断学, 感染症防御学, 国際感染症学, 感染疫学, 小児感染症学</p> <p>(25 稲岡 健ダニエル) 腫瘍生物学, 分子生物学, 構造生物学, 創薬化学, 寄生虫学</p> <p>(26 古賀智裕) 膠原病・アレルギー内科学, 免疫学</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。